

# 幼稚園と小学校

中 川 武 夫



## 一、教育の連続性

一人一人のこともは、刻々にあらたな生を展開しているが、しかも刻々にあらたになりゆく生は、同一人の生として不断連続的なものである。昨日の花子と今日の花子は全く同じではないが、しかも花子は花子として昨日も今日も連続している。こどもは不断に変化し発達して行くが、その発達は飛躍的、断続的ではなくて、連続的なのである。

こどもの発達が連続的である限り、発達の助成作用としての教育もまた、連続的でないければならない。そこにあらゆる教育が、同一のこどもの発達を中心として相互に密接なる連絡を必要とするゆえんがある。これを学校教育についていうならば、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、の各教育機関は、こどもの発達の程度に應じた、おのおの特有の教育をおこないながら、しかもたてに連続して相互に自然につながるようその教育計画を樹立しなければなら

ない。と同時にのおおのの段階の学校教育はそれぞれ、常に、家庭教育や社会教育と密接に連繫を保たなければならないのである。

しかるに従来の学校教育をふりかえつて見ると、それらは必ずしも完全に連繫を保つていたとはいい得ない。ことに幼稚園と小学校の教育とは、相互に分離した観が強かつたように思われる。幼稚園は小学校やその他の学校とは別のもののように考えられ、その教育機関としての意義が積極的に認められてはいなかつたようである。従つて教育は小学校への入学に始まるというふうを考えられ、幼稚園はや、もすると単なる子守機関であるに過ぎない場合もあつたのである。

今や幼稚園も学校系統のうちに積極的な地位を占めるようになりその教育的意義も次第に認識されるとともに、小学校との関連についても次第に研究が進められるようになったことは喜ばしい限りである。しかしこれらもまだその緒についたに過ぎないのであつて、今後の努力にまたなければならぬ問題が山積している。以下幼稚

園と小学校との連絡を緊密にし、相互の教育を一連的にするにはどうしたらよいか、について究明するために、(一)関連的に研究実施されなければならぬ問題点と(二)連絡を容易にするために必要な条件とについて考察しよう。

## 二、連絡を必要とすることがら

両者の教育を一連的にするために必要な問題点としては、教育の目的・目標、教育内容、指導方法等があげられるであろう。

### 1、教育の目的・目標の観点から

幼稚園、小学校の教育は、それぞれに特有の使命をもちながら、しかも連続的、関連的に行われなければならないということについては既に述べた。しかるに従来は、ともすると幼稚園はその特殊の一面に傾いて連続的な面をわすれたかのようなのであつた。幼稚園教育の目的や目標は地域社会におけるおのおの幼稚園の実情に基いて定められるべきものであり、最も具体的には社会内存在としての、一人一人の幼児に即して考えられるべきものである。しかし又、現下のわが国の幼稚園として一般的なものの規定することも必要である。そしていずれの場合においても、幼児が児童へと連続的に発展することを思えば、それが関連的に考えられなければならないことはいうまでもない。学校教育法第七十七条には幼稚園の目的を同七十八条には目標を規定している。われわれは先ずこれを吟味し、且つこれを同法第十七条及び第十八条に規定せられた小学校の目的、目標との関連において理解しなければならぬ。又具体的に各園の学年の教育目標を設定する場合、小学校入学前の学年においては、

小学校一年との関連において、これを考える必要がある。教育の目的、目標は歴史的社会に生活する一人一人の幼児の具体的な現実に出發して、それがやがて小学校、中学校、高等学校にも發展し、窮極には望ましい人間像にと連なるものでなければならぬ。

### 2、教育内容の観点から

教育目的、目標を達成するためには、これに最も適当した経験を用意しなければならない。ここに教育内容についての吟味が必要になる。従来の幼稚園教育をふりかえつて見ると、この方面における吟味も不十分であつたと思われる。特に主題の小学校との関連という面から考えると、両者は相互に無関係に近い状態におかれていたといつてもよい位である。最近、文部省が編さんした小学校の学習指導要領において、始めて幼稚園との関連を考慮し、不十分ながらも、これを一体的に考察しようとするに到つたことは極めて時宜を得たものといふことができる。過去においては幼稚園は小学校の教育課程を省みず、小学校は幼稚園のそれを考慮することなく、それぞれ独立的にその課程を考へていたようである。しかも幼稚園は眞に幼児の必要に基く教育課程を考察することなく、や、もすれば単なる伝統に従つて、幼児を遊ばせていたに過ぎない傾向があつた。私の最近経験した一例を参考までにあげてみよう。

丁度五月の節句の頃であつた。ある幼稚園の四才児学級を訪問すると、幼児たちは先生の指導のもとに、折紙で鯉のぼりを作つていた。先生の作品を模して、鯉のかたちを大小二つ折り、クレヨンで目、鰓、うろこをつけ、画紙に棒を画いたものにそれを糊づけする作業である。これは大多数のこどもにとつて極めて困難な仕事であ

つた。同じ頃その近くの小学校の一年の教室を訪問すると偶然に同じ鯉のぼりの作業をしていた。ここでは商人によつて既に作られた小さい鯉のぼり——それには、目やうろこは既に印刷してある——を用意し、児童たちは、単にそれにクレヨンで色をつけ、それを小さい竹棒に結びつけるだけの作業をしているのである。五月の節句に鯉のぼりを作ることは双方共に意味があるとして、学習経験の難易の度合や子どもの興味の程度からいつて、たての連関が極めて不自然であることは明かである。ここに学習経験についての研究が一段と望まれるのである。

又一例を数量や文字の経験にとつてみても、過去においては、幼児の現実のいかにかわららず、幼稚園において、この種の指導をすることは、誤りであるとして斥けられ、小学校に入学すると直ちに、これらの指導が教育の中心事であるかの如くに考えられる傾向があつたようである。かと思えば最近のある幼稚園では、幼児の興味や発達の間かんを省みず極めて積極的にこれらの指導をすすめているようである。

これらの点から考えて、今やわれわれは、子どもの実態をできる限り正確に把握し、これを基盤として一人一人の子どもの効果的な発展のために必要な経験をあたえるように、教育課程を構成しなければならぬ。そして幼稚園の教育を効果的に終了した子どもが、無理なく、自然に小学校の課程に進むことができるようにしなければならぬ。そのためには幼稚園の教育課程は小学校のそれとの関連において考えられなければならないであろうし、小学校は幼稚園終了児を入学させる限り、幼稚園の課程を考慮することなしに、そ

の教育課程を構成することはできないであろう。

### 3、指導方法の観点から

指導法においても、それが子どもの発達程度に即応しなければならぬことはいうまでもない。従つて幼稚園では幼児に適した方法が、小学校では児童に適した方法がとられるべきである。しかし幼稚園を終了して、小学校に進む子どもが同一人であつてみれば、その間に大きな間げきがあつてはならないことも明かなところである。しかるに過去をふりかえつてみると、幼稚園においては一般にあまりにも赤ちやんの取扱いがなされ、小学校入学と同時に急に生徒的な扱いがなされたのではないであらうか。

従来我が国教育においては、幼稚園、家庭、社会の別を問わず真に自由をもたない幼児に対して、自由をあたえようとし、次第に自由が発達して来る児童や青年に対してはむしろ拘束を加えようとする傾向をもつていたようである。従つて幼稚園においては、我まま、気ままの甘やかしの扱いが多かつたように思われる。自由をもたない者に対してこそ、制御を必要とする場合も起り得る。

又その一面、保育という言葉にも示されているように、幼児をいたわり、盲目的に可愛がつて、ある程度自主的に行動できる場合においても、あまりにも親切過ぎ、おせっかひ的なこともあつたようである。自分でできることにまで、手をとり、足をとつて助力するといふような場合が多いようである。

これらの点を考えると、指導の方法は、どこまでも、現実の児童の発達程度に即して、合理的教育的に考えられなければならない。さうすることによつて、幼稚園と小学校低学年との間の指導方法上

の連絡も自然になるであらう。

### 三、連絡を容易にするために

右に述べた問題点を解決して、幼稚園、小学校の教育を無理なく連絡させるためには、いろいろの条件、方法が考えられるであらう。次にその二、三の点について考察しよう。

1、幼稚園、小学校の教育について、一連的に一層の研究をすすめなければならぬ。

教育上の問題解決の基盤となるものは、こどもと社会、特にこどもの研究である。そして社会や子どもの必要をみたく、目標や内容がえらばれ、子どもにとつて興味的な方法によつて学習させるよう工夫することが大切である。これらの点について、学者も実家も一体となつて、一層の研究をすすめなければ、両者の連絡を根本的に解決することはできないであらう。従来、幼稚園教育についての研究は小学校のそれに比して、一層低調であつたことを思う時、幼稚園教育に従事する者は、実際の立場からこれらの研究に協力するとともに、研究的に教育を実施するよう心がけねばならぬ。

2、幼稚園、小学校は互に他の教育についての理解を深めなければならない。

幼稚園の教員は小学校の教育を理解せず、小学校の教員は幼稚園の教育を理解していないのが現状ではあるまいか。これでは関連的教育が行い得ないのは当然である。相互に理解を増すためには、次のような点に心がける必要があるであらう。

(1) 両者が合同して研究団体を組織したり、研究集会、研究協議会

等を持つようにする。

(2) 研究会等の際は、できるだけ、学校訪問や幼稚園訪問をして、それぞれの教育の実状を観察する。

(3) 幼稚園の教員が小学校の、小学校教員が幼稚園の、教育経験をもち得るようにする。場合によつては幼稚園終了児を担任した教員が一年生に持上り担任することもできるようにする。

このためには幼稚園、小学校の教員の資質、資格や待遇を同程度にする必要がある。従来はこれらの点において幼稚園の教員が低位におかれるとともに幼稚園教育が低位におかれていた。将来においては、幼稚園教育の積極的な意義が十分に認識されるとともに、教員の資質、待遇等においても小学校と同程度以上にならなければならない。

このように考えると教員養成制度が一層充実させられなければならないであらう。幼稚園の教員も小学校のそれと同様に教員養成を主とする大学において養成されるようにならなければならない。又現職の幼稚園教員が諸種の現職教育機関を利用したり、自己研修に努めたりして、自らの資質向上に精進することも極めて必要である。(4) 過渡期としては、小学校に幼稚園を附設したり、併設したりすることも、相互理解をます上に都合がよいであらう。このことは一定条件のもとに実施されるならば、現下の財政状態からいつても、好都合と思われる。

3、幼稚園終了期、小学校入学期の教育計画に、最長の注意をはらうことが望まれる。

日常において両者が関連的な経営をすすめることは、いうまでも

なく大切であるが、特に接続期における経営には一層の注意を必要とする。

(f) 幼稚園としては、指導要録その他子どもの理解に必要な資料を整え、これを小学校に提供するようにするとともに、幼児が安心して楽しく学校に進むことができるように指導しておく。

幼稚園は小学校へ進むための準備教育機関ではないから、一部の幼稚園に見られる如くいわゆる特定の小学校に入学させるための準備教育に忙殺されるようなことは、断じて控えなければならぬ。しかし幼稚園終了児は必ず小学校に進学するものであるから、彼等が心安く、不便を感じることなしに、小学校生活に適應できるように指導しておくことは必要である。

そのためには又小学校が幼稚園生活における新入学生の終歴を容易に理解することができるように、一人一人の子どもについての詳細な記録を資料として提供することが必要となるのである。これには幼稚園としての希望や意見等を附記する事も望ましいであろう。

(g) 小学校としては一年生が学校生活に無理なく適應できるように工夫しなければならない。

その為には、幼稚園より提出せられた児童についての諸資料を児童の入学前によく調査し、必要によつては幼稚園とも連絡して、なるべく詳細、適確に児童の経歴について理解しておかねばならない。入学児童の学級編成に際しても、幼稚園終了児と然らざる者とをえ考、特に注意すべき事項が認められる場合には、これが解決に努力し、適正なる方途を講ずる必要があるであろう。

#### 4、幼稚園教育を普及徹底させ、小学校入学児童は大部分幼稚園

終了児であるようにする。望み得るならば幼稚園一カ年を義務教育期間とする。

思うに今日幼稚園教育の徹底化をはばみ、又小学校との連関を不充分にしている一原因は、小学校入学児の一部分のみが幼稚園終了児であるというところにある。経験を大きく異にする二種の児童がいることは、小学校の教育計画をかなり困難にする結果、小学校ではともすれば幼稚園を終了しない児童を中心としての教育計画を立てることになり、一方幼稚園においては、かかる小学校教育を予想して、極めて消極的なる教育計画を実施するに過ぎなくなるのではなからうか。もちろん現下の状況においても、われわれは、幼児の必要に基く幼稚園教育を計画、実施し、その基礎の上に小学校教育を計画し効果的にこれを運営する技術と熱意とをもつべきであるが幼稚園教育を受けない児童が少なくなればなるほど、その実施が容易になるであろうことは明かなところである。

この点から考えると、幼稚園が全国的に増設され、やがてはそれが義務教育機関となるよう望みたいのである。現下の財政状態からすれば、小学校に幼稚園を併設することもよいのではなからうか。

このようにして、幼稚園教育が一層普及徹底し、小学校教育又従つて中学校教育と一体となつて、國民の基礎教育としての自らの使命を果すことができるならば、文化國家の建設も期してまつべきものがあるであろう。それにつけてもわれわれは教育の推進力としての教師の責務の重大さを自覚し、真に強力なる教育精神と科学的なる教育技術によつて、如上の諸問題の解決に言わなければならない。

(筆者、東京学芸大学附随竹早小学校長)